

プロジェクト報告書

団体名 特定非営利活動法人 Sing Out Asia

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

Japan Visit 2013

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

このプロジェクトは毎年3月に東南アジア各地で行っているクロスカルチャーCamp & Tourの成果を進化させるために行っています。Sing Out Asiaは「様々な国の人々と交渉し、共に仕事ができる力を持つ若者」「異質な個性とぶつかりあうことを怖れない、主体性のある、強い精神力を持つ若者」をアジア全域で育てることを目的にしていますが、このプロジェクトで、アジア諸国の若者たちの友情がさらに深くなり、一生の友達が生まれています。このような友情を基礎として、アジアの明るい将来が築かれると思います。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

2013年3月に行った「クロスカルチャーCamp & Tour in ベトナム」に参加した、タイ王国の王立チュラロンコン大学の学生たち、ハノイ国立大学の学生たち、さらに昨年のインドネシアにおける「クロスカルチャーCamp & Tour」に参加した国立イスラム大学の学生、合計7名を日本に招聘し、日本の大学生たちが日本を案内するプログラム。今年には岐阜の下呂温泉、八ヶ岳を訪問。東京・鎌倉などの見学を行った。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

アジアの学生たちを案内するのは、日本の学生たちの仕事であり、極力、日本の大学生たちの主体性を重んじた。その結果だろうか、学生たちは今後、さらに大きな責任をとりたいとの意欲が出て来た。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

日本は世界だけでなく、アジアにおいても異質な国であることを感じた。このような国、日本にアジアの優秀な学生たちを招くことは、日本だけでなくアジア・世界の今後の平和に役立つと思う。今回は、ことさらアジア諸国の学生たちと日本の学生たちの友情が深まったと思う。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり

Sing Out Asia

「JAPANVISIT 2013」

2013年8月2日～12日



Japan Visit 2013

2013年の「Japan Visit」は2013年8月2日～12日に行われた。

外国からの参加者はインドネシアから国立イスラム大学のFlkri、タイ王国チュラロンコン大学政治学部からPim, Ply, Annie、国立ハノイ大学東洋学科からHuyen, Hien, Binの7名。

宿泊は代々木オリンピック青少年センターとホームステイ。岐阜の下呂温泉、舞台峠で森林ツアー。八ヶ岳では平川理事の別荘に宿泊。青空に恵まれ、マス釣り、クロスカルチャートレーニングを行う。

写真：左上から、好絵さん・梓・ルー。中段：Pim, Hien, Huyen, 香菜、Ply。手前：Bin, Annie, Fikri



東京近郊では飯森理事の自宅で「お茶会」、浅草、原宿、ディズニーランド、鎌倉海岸などを訪れる。

日本側参加者は首都大学東京、中央大学、文教大学、独協大学、埼玉大学などの大学生15名。

添付したプロジェクトの感想文をお読みください。□

*このプロジェクトは真如苑「Shinjoプロジェクト」、一般財団法人MRAハウス、大地舜事務所から助成を受けています。



SOA family